

The Futaka Spirit

(現教だより第2号)

6年 理科

単元名 「地球に生きる①自然の恵みと私たちの生活」

指導者 橘 慎二郎

【学習活動】

- 1 前時に行った実験結果を整理する。
(本時の課題)



各グループごとの実験結果について交流する



自分達の実験結果と比較、関連付けて考察する

- 2 全体交流を通して、自分の考えをつくっていく。
(単元の課題)



身の回りの資料も活用しながら総合的に考える



感受・想像・意味付けをもとに、知を見出していく

- 3 単元の課題に対する自分の考えをまとめ、理科日記を書く。



自然発生的な交流を通して自己の内面に働きかけ、自分にとって意味のある知を創造していく



(文責 橘 慎二郎)

【橘コメント】

子ども中心主義の教育観から言えば、教科学習の系統化及び構造化は、単に教師の主観による内容の組み替えではなく、子どもの認識の過程を追いながら行われていくべきものである。そのためにもまずは土台となる認識の構造表を教師が設定しておき、そこから子どもの実態に合わせて、内容を随時付加、修正していくことが大切である。そしてその過程を教師と子どもが共有することで、子どもの概念は教科の本質へと向かっていく。子どもの知の創造に向かう「理科日記」は年間を通して継続して行うようにしたい。

～ 地球に生きる① 自然の恵みと私たちの生活 ～



方策Ⅱ 創造された知と4観点の関係性を明らかにする。

大きな問題として、長期目標を定めることを決意し、その実現を期す。このためには、まず、現状を把握し、課題を抽出し、目標を設定し、計画を立て、実行し、評価し、改善を繰り返す。このプロセスを通じて、組織の能力を向上させ、持続可能な成長を実現する。

いを、定ユ。識目
とを、は、想きた、知を
るを、含、での、リ、い、造
す、含、で、の、リ、い、造
与、を、踐、知、力、で、創
寄、能、実、た、④、し、の、
に、技、橋、れて、と、る、知
め、で、さ、い、る、あ、ぜ
の、理、を、創、に、つ、き、で、な
た、理、を、創、に、つ、き、で、な
点、・、知、つ、点、ミ、を、出、こ
観、識、た、。ン、想、し、と
4、知、つ、点、ミ、を、出、こ
4、知、つ、点、ミ、を、出、こ
第、点、に、く、タ、組、て、す
が、観、積、き、る、サ、し、を
点、4、解、大、れ、度、と、け
観、う、。さ、程、の、分
3、は、い、。造、る、も、び
の、度、と、つ、創、ある、さ
他、年、る、あ、が、は、あ、と
め、。本、れ、が、知、知、味、こ
め、。さ、案、③、た、意、そ
た、た、造、提、て、れて、
た、き、創、の、い、さ、つ、が、
い、て、が、て、つ、造、と、い
て、れ、知、い、に、創、に、な
い、さ、つ、つ、分、き
置、視、あ、に、分、は、自、で
と、題、の、か、び、で、が、は
点、問、味、る、さ、①、も、と
観、が、意、え、の、に、ど、こ
4、性、で、ら、と、特、子、る
第、層、つ、と、能、。の、め、た、。
を、階、と、に、技、て、人、と、き
知、の、に、う、・、い、一、ま、て
た、間、分、よ、解、つ、人、に、し
れ、点、自、の、理、に、一、う、り
さ、観、。ど、・、け、よ、き
造、り、を、識、付、は、の、つ、
創、り、よ、知、知、知、能、は、
は、な、に、た、②、位、た、技、が
度、に、と、れて、の、れ、・、か
年、図、こ、さ、い、上、き、解、の、
昨、構、む、造、つ、ム、造、理、す
う、育、創、に、ラ、創、・、指

議論となった。子どもたちが毎時の意味を振り返りノートである「理科日記」の運用の仕方について議論となった。子どもたちは正しいといえる。ただ振り返りを書くのではなく、問題解決や知の創造を意識することで、レベルでの子どもの変容を見取ることができる。しかし、これがどこまで継続可能なものかという評価がおそろそかに疑問視するのではないかと意見も出された。授業後の振り返りに頼りすぎるあまり、即時的

○ 年間指導計画の精査により子どもの認知過程が構造化され、長期レベルでの見方・考え方を育むための単元化が可能となった。

○ 創造された知についてある程度の枠組みを想定したことや、知識・技能・理解とのさび分けが行われたことで、これまで分かりにくかった「自分にとって意味のある知を創造する」ことについての解釈が明らかになった。

△ 「理科日記」での見取りによって、子どもが自分にとって意味のある知を創造する姿が分かりやすくなり、表出されたものの、それに頼りすぎる指導では、即時的な評価・指導につながらないのではないかと課題が残った。